

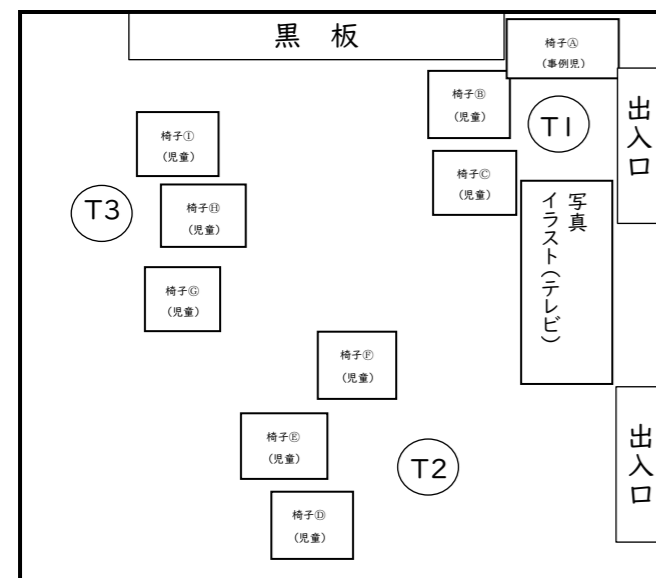
授業づくりシート

領域名 自立活動


5 学年

テーマ	「吹いたり吸ったりして、口の形を変えてみよう」	
事例児の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・「えほんをかして」と文字カードを並べて伝えることができる。並べたカードを指さしながら教師が一文字ずつ口形を示して言葉を出すと、一文字ずつ発声することができる。 (人間関係の形成、コミュニケーション) ・初めてのことや口周りを触ろうとすると拒否反応を示す。見通しをもてるように教師が手本を示したり、繰り返し行ったりすることでスムーズに行えるようになる。 (心理的な安定、環境の把握) 	
事例児の個別目標	<ul style="list-style-type: none"> ・指定された文字を読むことができる。(人間関係の形成、コミュニケーション) ・道具を介して声を出すことができる。(心理的な安定、環境の把握) 	
活動内容と具体的な手立て		
活動内容	ねらい	具体的な手立て
<ul style="list-style-type: none"> ・口形練習 ・発声練習 ・舌の体操 ・息を吹く練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・口形模倣をすることができる。 ・長く大きな声を出すことができる。 ・口腔機能の向上につなげる。 ・発声につながる息づかいの練習をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・母音の口形を映像で示し、1対1で確認する。 ・自分の声が反響する、牛乳パックを用いた教材を使用する。 ・絵本を読み、声を出すタイミングで「せえの。」と合図をする。 ・舌を出した映像と手本を示す。 ・息を吹きつけて走る車で競い合う。

○場の配置




○教材教具等



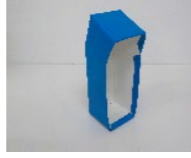
ブクブクコップ

息を吹いている様子が目で見てわかるように、透明のコップに星形のビーズを入れる。



ロケット飛ばし

ストローで息を吹き、ロケットを飛ばす。



ももしもパックマン

自分の声の反響を聞き、正しい発音を聞き分ける。

○展開

時配	活動内容	教師の支援等
9:50	○挨拶・呼名	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が聞き取りやすい明瞭な声で挨拶を行う。 ・呼名では、自分の順番や自分の声を意識できるように、マイクを使う。
9:52	○絵本「でんしゃでいこう」を読む	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の声を出すタイミングで、「せえの」と合図をする。
10:00	○グループに分かれる T1グループ ★事例児 ① 口形練習 ・「あ・い・う・え・お・ん」の口形を1つずつ確認しながら、声を出す。 ② 発声練習 ・「あー」など発声しやすい平仮名を発声する。 T2グループ ① 息を吹く練習 ・ストローを使って息を吹く練習をする。 T3グループ ① 舌の体操 ・舌を上下左右に動かす。 ② 息を吹く練習 ・口をすばめたウの口で息を吹く。	<ul style="list-style-type: none"> ・個別で口の周りの筋肉をほぐすマッサージをして、口を動かす準備を行う。 ・絵本を用いて、すでに発声できる単語を繰り返し言う。 ・知っている平仮名を使った単語を一文字ずつ一緒に発声する。「か」→「か」「え」「る」 ・発声ができたときには、よく声が聞こえたことや、発声の良さなど、児童一人一人を称賛し、発声に自信がもてるようにする。 ・息を吹きかけて走る教材「ゴーゴーマシーン」を使用する。 ・走った距離を競い合うことで、児童の意欲を持続させる。 ・舌の動きを示した映像を使用する。 ・頬や鼻などを指でさし、舌を動かす方向が感覚でわかるようにする。 ・ストローを吹いて息が出たことが視覚的にわかるように、教材「ロケット飛ばし」を使用する。 ・「ふうー。」と目の前で伝えながら、息を吹くことを伝える。 ・ロケットの距離を競い、児童が楽しみながら活動に取り組めるようにする。
10:10	○挨拶	

○成果と課題

○9人グループをさらに3グループに細分化したことで、児童の実態に合った教材教具を使用して指導することができた。細分化したことで、事例児に視点を当てた教材を考えたり授業の中で丁寧に見たりすることもできた。

○授業内で全体指導とグループ指導を行ったことで、活動にメリハリをつけることができた。児童の集中力の持続につながった。

△活動の積み重ねが日常生活の中に活かしていけるような工夫が必要だと考える。